

第1章 地域（南国市）の現状と課題

1. 南国市の概要

(1) 位置と地勢

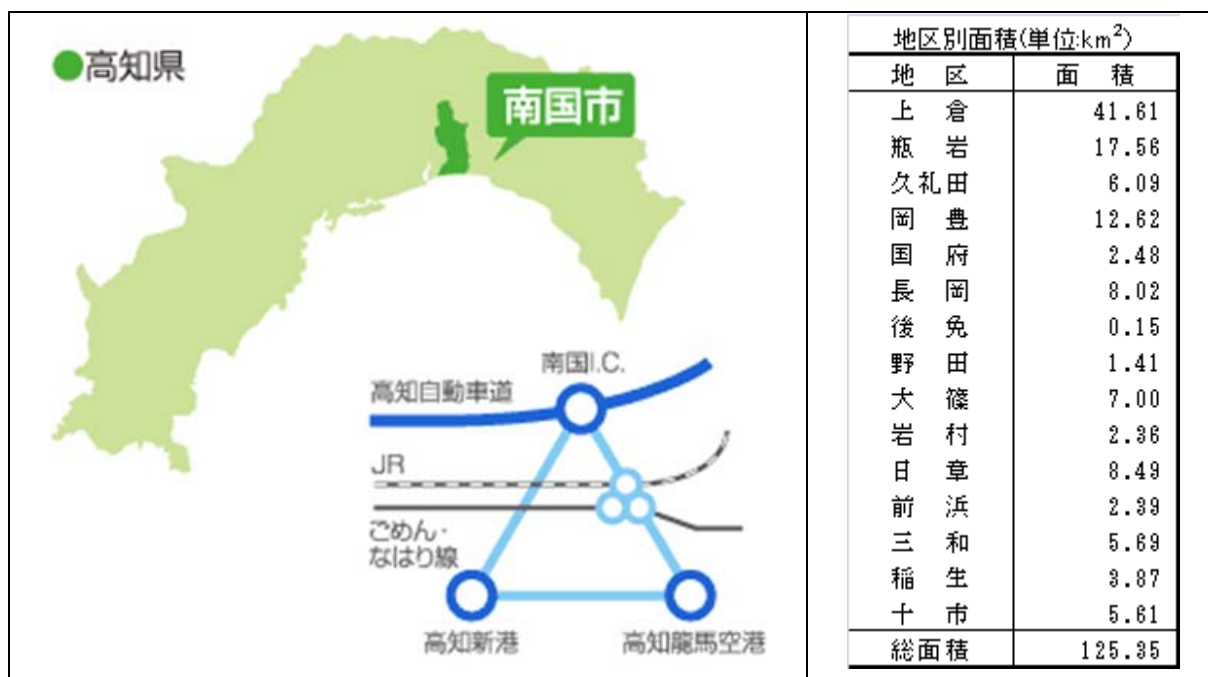
南国市は、高知県の中心部、高知市の東隣（東経133度38分、北緯33度34分）に位置する人口5万人弱の市で、南は太平洋、北は四国山地に連なっている。市域は、東西約12キロメートル、南北23キロメートル、総面積は125.35平方キロメートルである。

奈良時代から平安時代にかけて国府が置かれ、「土佐日記」を記した紀貫之は第48代の国司を勤めた。

かつて土佐の政治・文化の中心地として栄え、市内には豊かな自然とともに歴史的な資産が残されており、坂本龍馬や長宗我部元親ゆかりの史跡を訪ねる歴史ファンも多い。

また、南国市は食育でも知られる。2005年12月に「南国市食育のまちづくり条例」を制定。健康で豊かな活力ある南国市を実現するため、全国に先駆けて学校教育に食育を取り入れ、自校炊飯、週5日の米飯などをいち早く実施するなど、市と市民が一体となった食育のまちづくりを推進、南国食育フォーラムの開催など積極的な活動を続けている。

近年では、四国横断自動車道南国インターチェンジ、高知龍馬空港を有し、同時に高知新港に隣接し、高知県中心部の交通の要衝を占めるとともに、南国オフィスパークや流通団地等の企業団地の整備が進むなど、新産業拠点としても発展を続けている。



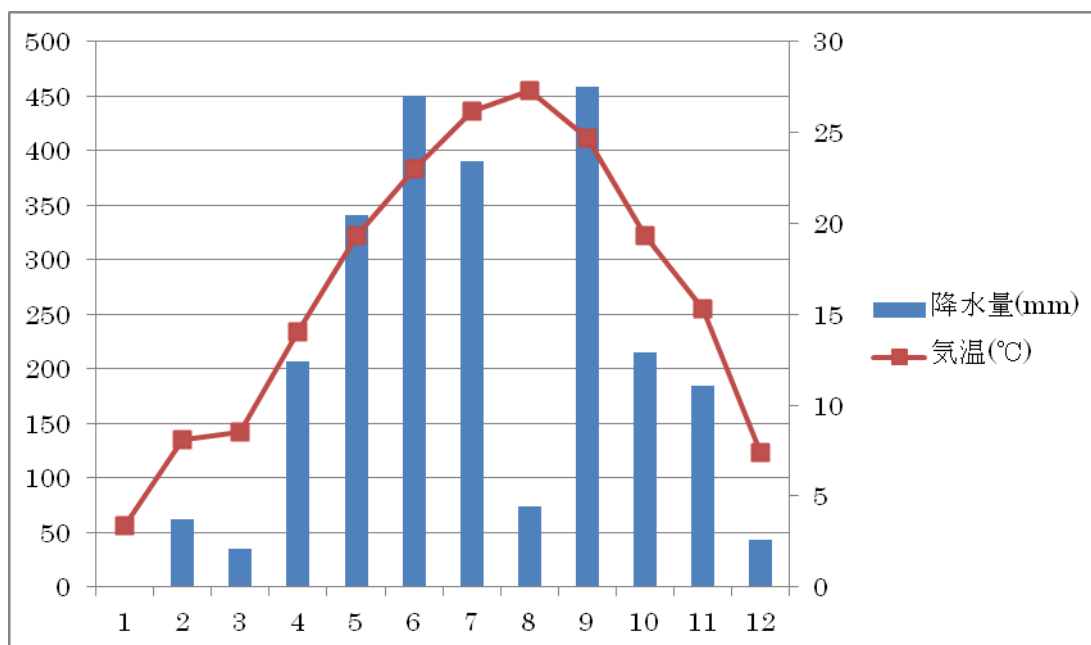
(2) 気象

南国市の近年の気象は、年平均気温が 16.4℃～17℃で一定している。年間降水量は、1,727mm～2,760mm であり、比較的温暖で降水量が多い。年間日照時間 2,151.6 時間、冬は季節風が四国山地で遮られることや黒潮の影響で温暖、夏は太平洋高気圧の影響で晴れが多く暑い日が続く。

	気温 (°C)					風速 (m/s)				降水量 (mm)	
	平均	極				平均	最大			総量	最大日量
		最高	月日	最低	月日		風速	風向	月日		
平成18年	16.9	34.6	8月 8日	-4	2月10日	2.0	13.0	SSW	2月26日	2,760	161
19年	17	36.3	9月 6日	-2.7	2月 3日	1.8	12.0	ESE	7月14日	1,727	233
20年	16.4	34.3	7月30日	-3.5	2月17日	1.8	11.0	N	3月21日	2,065.5	156
21年	16.7	35.2	8月14日	-4.3	1月25日	1.8	13.8	N	10月 7日	1,932	151.5
22年	16.8	34.7	8月23日	-5.3	1月14日	1.8	12.2	N	4月 7日	2,634.5	176.5

<高知地方気象台 後免地域気象観測所>

月別平均気温及び降水量



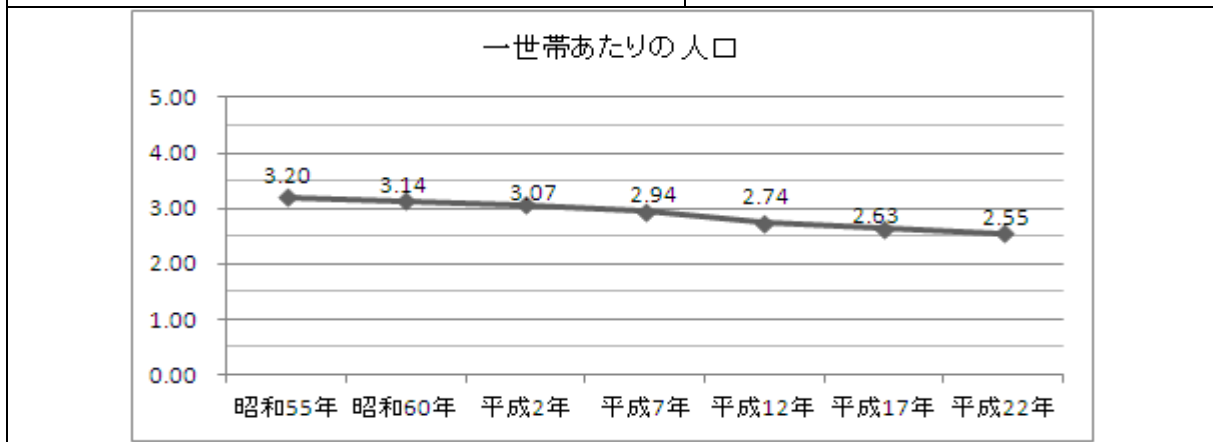
(後免地域気象観測所 2011年)

(3) 人口

①総人口数と世帯数

平成22年の国勢調査によると、南国市の総人口は、49,472人で、平成17年の調査より2.5%減少しているが、世帯総数は、19,377世帯で前回よりも4%増加している。平成17年までは、人口が増加傾向にあったが、平成22年では、減少傾向に転じている。一世帯あたりの人口も減少傾向にあり、平成22年度は、2.55人になっている。また、南国市は、高知大学への外国人留学生が大学周辺に居住している。

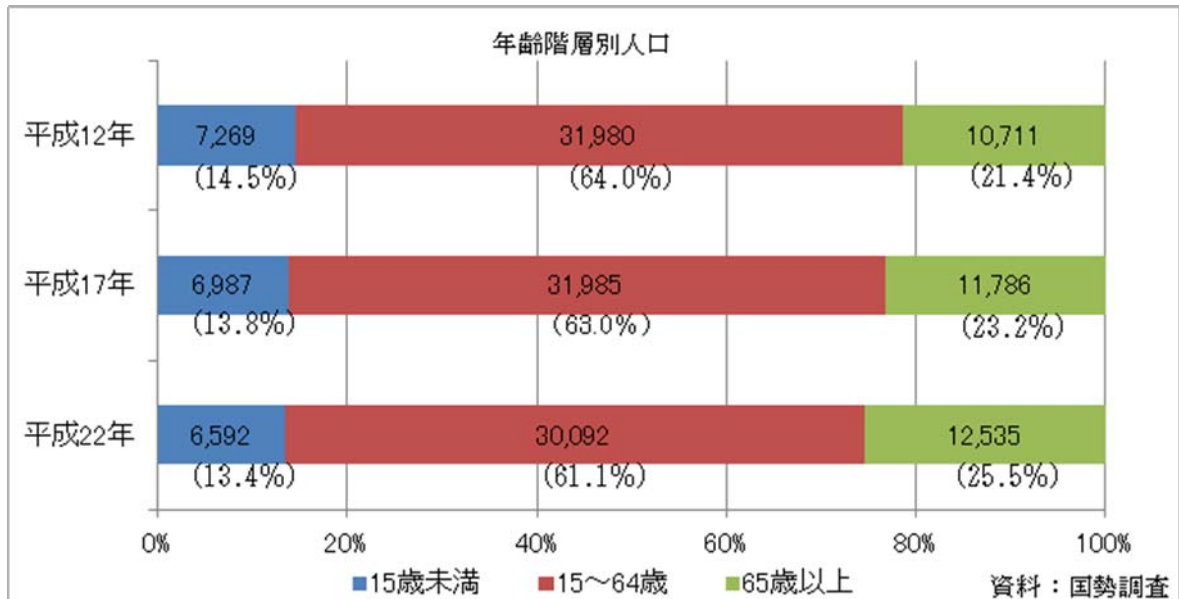
人口の推移（世帯数と人口）							外国人登録人口					
	世帯数	人 口						平成19年	20年	21年	22年	23年
		総数	男性	女性	1世帯 当たり	増加率	密度	登録人口				
昭和55年	14,015	44,866	21,823	23,043	3.20	4.7	359.0	286	262	279	261	231
60年	15,145	47,554	22,912	24,642	3.14	6.0	380.5	36	33	32	30	32
平成 2年	15,251	46,823	22,441	24,382	3.07	△1.5	374.3	※各年12月31日時点の数値<市民課>				
7年	16,410	48,192	22,894	25,298	2.94	2.9	385.2					
12年	18,268	49,965	23,798	26,167	2.74	3.5	398.6					
17年	19,296	50,758	24,179	26,579	2.63	1.6	404.9					
22年	19,377	49,472	23,476	25,996	2.55	△2.5	394.7					
※各年10月1日時点の数値<国勢調査結果>												



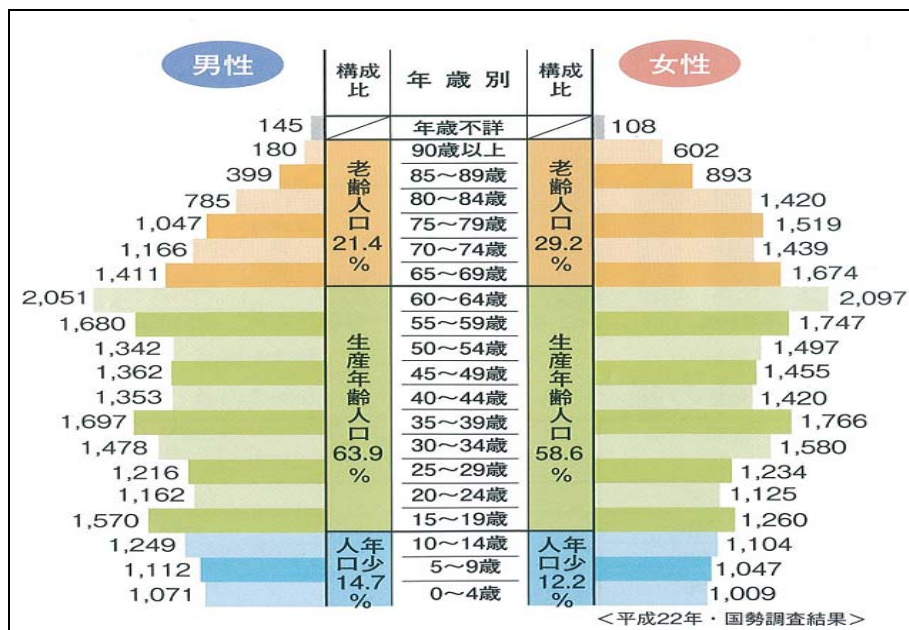
②年齢層別人口

2010年(平成22年)の南国市の年齢階層別人口は、15歳未満の人口が6,592人(13.4%)、15歳から64歳の人口が30,092人(61.1%)、65歳以上は12,535人(25.5%)となっている。

年齢階層別人口の構成の推移をみると、2000年(平成12年)から2010年の10年間で15歳未満の人口の割合が1.1%減少する一方で、65歳以上の人口の割合は、4.1%増加、高齢化率が進行している。



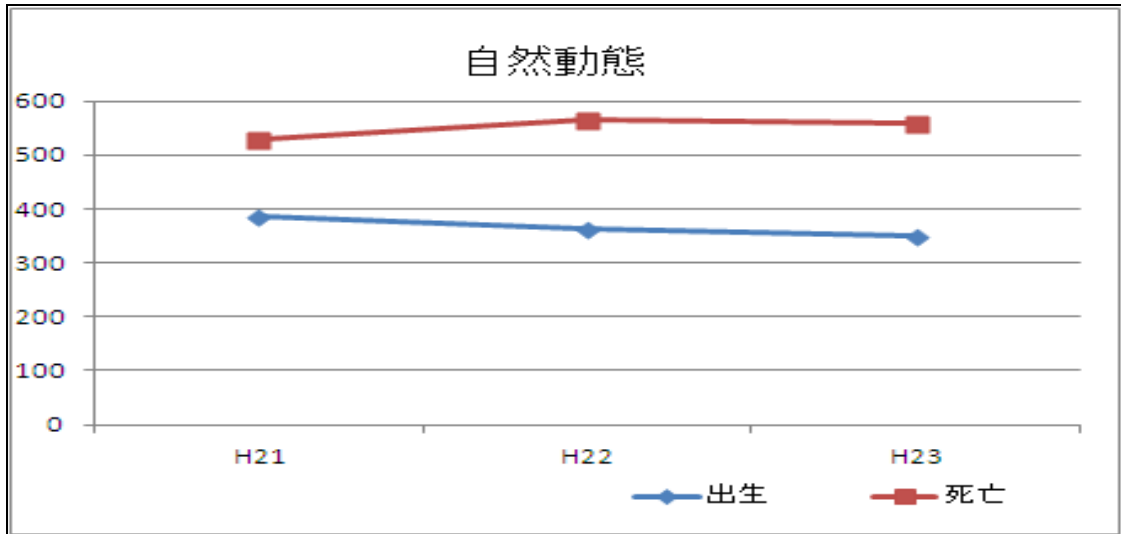
(注) 年齢不詳分があるため、各階層の合計と前頁の総人口とは一致しない。



③人口動態

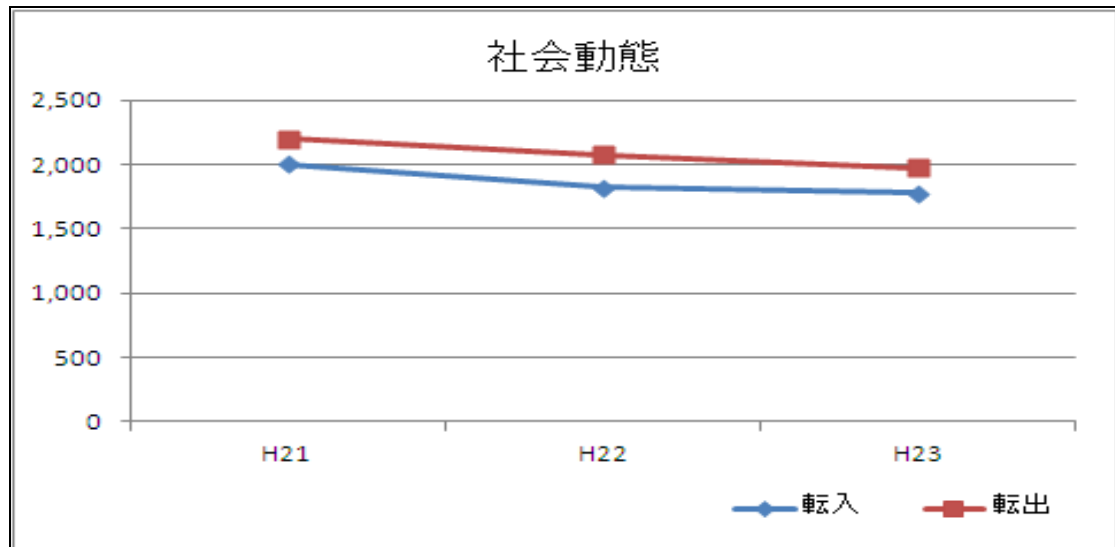
ア. 自然動態

死亡が出生を上回る傾向が続いている。



イ. 社会動態

転出が転入を上回る傾向が顕著になっており、全体として人口が減少に転じ、その傾向は続いている。



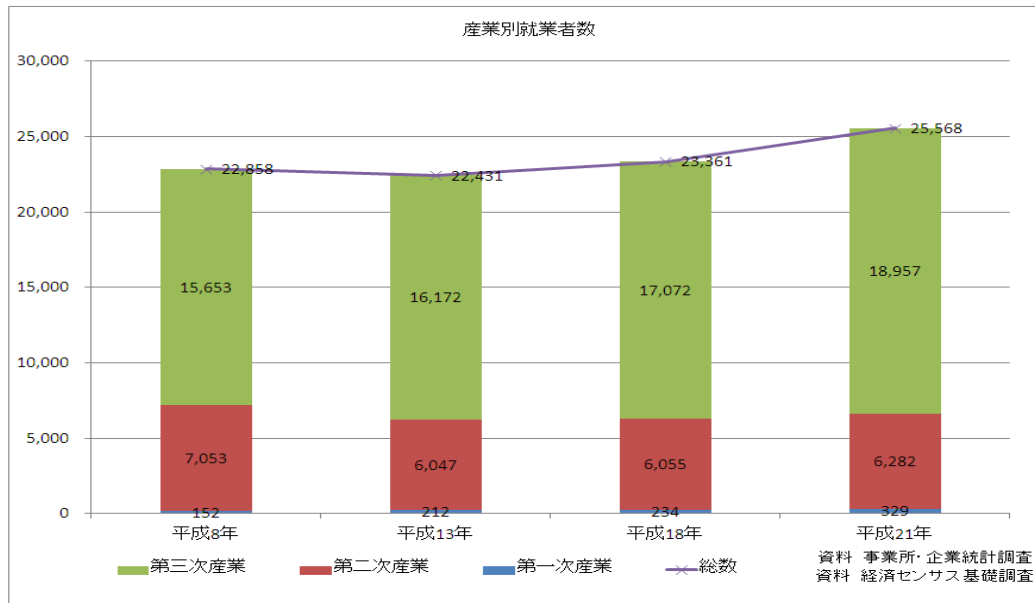
	自然動態		社会動態	
	出生	死亡	転入	転出
H21	386	528	2,000	2,203
H22	363	564	1,824	2,075
H23	350	558	1,780	1,972

(4) 産業

①産業別就業人口

平成21年の就業人口は、25,568人で、第1次産業が329人(1.3%)、第2次産業が6,282人(24.6%)、第3次産業が18,957人(74.1%)となっている。第1次産業は微増、第2次産業は、減少しており、第3次産業の割合が年々増加している。

産業別就業者数は、南国市の事業所に就業している人口を示しており、南国市住民に加えて、他に近隣地域から勤務する住民が含まれている。



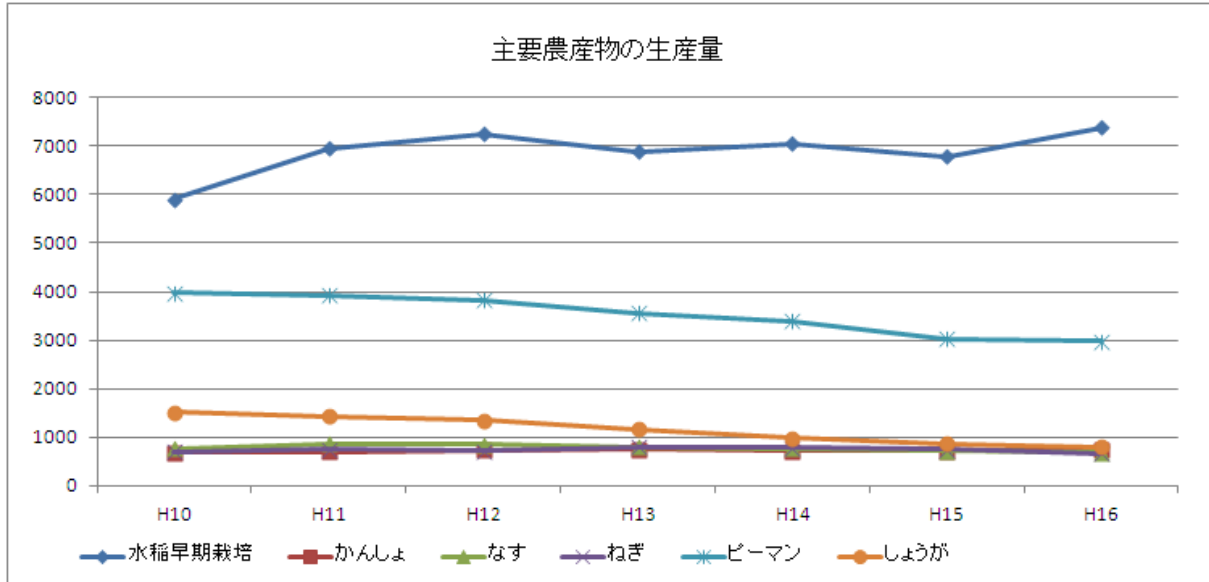
産業分類別事業所の推移

分類	平成8年		平成13年		分類	平成18年		分類	平成21年	
	事業所	従業者	事業所	従業者		事業所	従業者		事業所	従業者
総数	2,407	22,858	2,299	22,431	総数	2,186	23,361	総数	2,173	25,568
農業	8	138	15	205	農業	14	233	農林漁業	28	329
林業	2	11	1	6	林業	—	—	鉱業、採石業、砂利採取業	5	78
水産業	1	3	1	1	漁業	1	1	建設業	194	1,339
鉱業	11	219	9	131	鉱業	6	103	製造業	237	4,865
建設業	224	1,854	224	1,817	建設業	194	1,309	電気・ガス・熱供給・水道業	1	25
製造業	284	4,980	249	4,099	製造業	245	4,643	情報通信業	18	271
電気・ガス・熱供給・水道業	3	33	2	26	電気・ガス・熱供給・水道業	1	21	運輸業、郵便業	92	2,937
運輸・通信業	93	2,028	90	1,672	情報通信業	14	264	卸売業、小売業	608	4,696
卸売・小売業、飲食店	1,003	5,506	941	5,590	卸売・小売業	536	4,360	不動産業、物品賃貸業	57	323
金融・保険業	27	404	32	615	飲食店、宿泊業	234	1,345	学術研究、専門・技術サービス業	57	543
不動産業	45	93	64	131	金融・保険業	24	370	宿泊業、飲食サービス業	241	1,502
サービス業	629	6,912	541	7,453	不動産業	66	199	生活関連サービス業、娯楽業	163	720
公務	59	578	30	633	医療、福祉	51	3,885	教育、学習支援業	74	1,630
					教育、学習支援業	82	1,513	医療、福祉	153	4,131
					複合サービス事業	41	263	複合サービス事業	26	299
					サービス業(他に分類されないもの)	374	1,750	サービス業(他に分類されないもの)	123	575
					公務(他に分類されないもの)	24	553	公務(他に分類されないもの)	24	587

<事業所・企業統計調査>
<経済センサス基礎調査>

②農業算出額と生産農業所得

温暖な気候を生かし、早場米の生産に力を入れている。また、平野部ではししとう、しょうが等、また、中山間部では、たけのこ（孟宗竹、四方竹）が主要な農産物である。JAの直販所、量販店での直販など、生産者の顔が見える販売形態も特色として上げられる。生産物の販売だけでなく、加工品の製造にも力を入れており、地産地消、地産外商に取り組んでいる。



③製造品出荷額

平成22年の製造品出荷額は、792億6,140万円となっている。平成22年の製造業事業所は110事業所で、金属加工、機械製造業が3割強を占める。打刃物、機械製造業が多いことも特色の一つであり、この分野では高い技術を誇る。平成19年は、半導体関連企業の出荷額増加により一時的な増加がみられたが、その後は、同企業の出荷額や企業数の減少により、年々減少傾向にある。

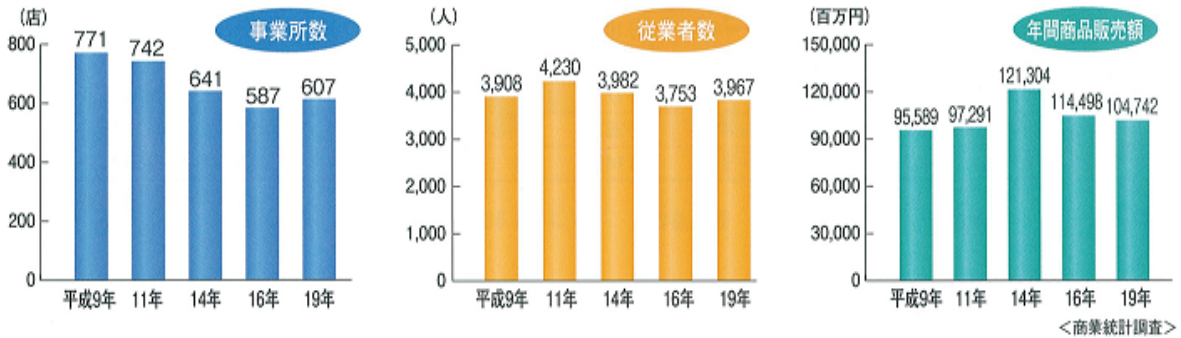
製造業の推移 (従業員4名以上の事業所)



④年間商品販売額

平成19年6月1日現在で607事業所、年商1,047億円となっている。平成19年は、事業所数や従業員数が増加しているが、年間販売額が微減している。平成14年は、第57回国民体育大会「よさこい高知国体」の開催、ごめんなはり線の開通関連で年間販売額が増加しているが、全体的には、ほぼ横ばいの状態で推移している。

卸売・小売業の推移



⑤観光

南国市は、交通アクセスに恵まれており、市内には観光スポットが点在している。ただ、観光地としての知名度は一部を除いて低く、高知市等への通過点となっている。

観光に関しては、平成22年から携帯電話を利用した長宗我部元親ラリーを株式会社カプコン (CAPCOM) と提携して行っている。この時期になるとホームページへのアクセスも増加し、参加者も多くなっている。

高知県の観光客数推移(主要交通機関県外入込客数)

	乗用車	観光バス	高速バス	JR	航空機
平成18年	1,997,953	705,395	110,846	134,627	102,108
平成19年	1,885,489	665,691	107,625	132,783	95,314
平成20年	1,914,346	641,681	110,658	135,389	90,434
平成21年	2,011,495	674,245	103,438	118,383	80,844
平成22年	2,736,699	1,080,179	108,421	120,323	93,388
平成23年	2,411,866	947,382	110,422	120,256	95,916

(高知県観光政策課)